

アフリカって、 五感を驚づかみにする所。



●アフリカダンスとの出会い

私、幼い頃からクラシックバレエやヒップホップなどいろいろ習ってましたけど、19歳で出会ったアフリカダンスだけは何か違ったんです。その魅力というかルーツが知りたくて26歳で念願の西アフリカ・ギニアに渡り、強烈な衝撃を受けました。何て言うんだろ…音楽に魂が宿っていて、五感を驚づかみにされる感じ？もう元には戻れない、お父さん、ごめんなさい…みたいな(笑)。そこからは、アフリカでお金がなくなったら日本に戻ってバイトをして、またアフリカに行ってしまうという生活を繰り返していました。

●アフリカってどんな所？

水がない、電気がない、は当たり前ですよ。車は走っていても、必ず故障するし。みんな怒ったり泣いたり、感情剥き出しで生きていて、隣人はおせっかいなほど干渉してきます。ギニアはイスラム教の国で、一夫多妻制でしょう？日本では考えられないことだけでも、「それはアラアが決めること」と言われたら納得するしかない。困ることもたくさんあるのに、日本にいるとあの奇想天外な毎日が懐かしくなります(笑)。

●2006年、劇団AFRICA発足のきっかけは？

当時、福岡にはすでに、アフリカのダンスユニットやパーカッションチームがいくつもあつたんです。みんなが集まれば、もっと大きなことができるのに…って全員が思ってたんじゃないかな。私はただ「この指とまれ！」って手を挙げただけなんです。劇団って付けたのは、インパクトがあつていいかなと思って(笑)。今では、国際交流イベントをはじめ、施設訪問や

各種レッスン、他ジャンルの音楽とのコラボレーション、アフリカ料理のケータリングなど、幅広い活動に携わっています。

●結婚、そしてママになる

2011年に長男が誕生し、いま妊娠5か月で、来年には双子が産まれる予定です。ママになったことで、10年前は全く想像していなかった「乳幼児のための舞台芸術の可能性を探る」という福岡市の事業からも声を掛けていただいて、自分でもびっくりです(笑)。それだけ音楽の力は偉大なんです。例えば、育児ノイローゼや児童虐待で悩んでいる母親が、いきなり心理カウンセラーに悩みを打ち明けるのは難しくても、親子でレッスンに通って、「今日はうちの子よく寝た」とか、「太鼓叩いたらスッキリした」とか、音楽が身近にあるアフリカでは当たり前のことを日本でも広めていけたらいいなと思っています。

●RumikoさんにとってHappyなこと

この衣装で「隣人と助け合いましょ」と言ってもかなり怪しいでしょうけど(笑)、私自身60歳になっても踊っていたいし、劇団AFRICAも謎のアーティスト集団であり続けたいと思っています。あとはもう一つ、夢みたいな構想があつて、アーティスト・イン・レジデンスを福岡で実現できたらいですね。アーティストがたくさん集まって、踊っても太鼓叩いてもOKみたいな場所ができれば、すくHappyです！



Profile
劇団AFRICA(<http://www.g-africa.com>) / 団長 Rumiko
長崎県佐世保市出身。19歳でアフリカダンスと出会い、26歳で「劇団AFRICA」を発足。パピヨンプラザで開かれる「ママさんアフリカン」は、子連れで楽しめるレッスンとして大人気！ご主人は、劇団AFRICAのパーカッション・Hirokiさん。11月23日・24日は、アクロス福岡のステージにご夫婦が登場します。